

20/3/20 第34回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議石垣部会終了後の記者会見
(名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

名古屋市:先生方の取材時間ということで時間をとらせていただきますので、幹事社の方は

毎日新聞:幹事社の毎日新聞の野村と申します。よろしくお願ひします。

こちらから質問すると言うことでよろしいですか。

私から1点、冒頭にほうこくがありました、外構工事の毀損なんですけれども、まだ全体整備検討会議にかける立場なので、お話いただける範囲でいいんですが、あらためてどういうふうに求められて、今後どういう対策が必要なのかというのをお願ひします。

北垣:あの、これはですね、すでにさきほど少しお話ししましたけれどね。

いわゆる毀損事案についてやはりこれは特別史跡の名古屋城、これはまず第一ですね。

それ、そういうような中でですね、ああいった事案が起きてしまった。

それはですね、普通では考えられないことだと、これを申し上げたんですよね。

それで、この点はですね、石垣部会だけの話と言うよりも、これはやはり、これからしようとしている特別史跡名古屋城の全体のために、どうしていったらいいんじゃないか、そういうような意味でしっかり全体親委員会にですね、親委員会に働く上にですね、しっかり検討し、局長さんもしっかりとところはしっかりしながら、何らかのしっかり手立てをすると、こういうようにおっしゃっていますから、ぜひそれをやっていただきたい、これが1点。

毎日新聞:全国的にも珍しいというお話があったのですがけれども、あまり聞かれたことがないという
ような

宮武:本来、国史跡であれ特別史跡であれ、文化財として指定されている物件を、いわば市民県民
国民に対してそれを保護して管理していくという組織が必ず行政にはあるわけです。

それに該当する行政体が原因者になってしまった。壊す側になっちゃったわけですね。

なおかつそれをチェックする機能も同じ原因者だった。

これはチェックが働かなかったんですね。それで起きてしまって、損壊したってのは私が知っている限りでは聞いたことが。それは全国の文化財が損壊している例というのは、開発行為。

その文化財を保護するサイドではなくて、そうではなく、別のセクションにたっている様々な事業で折衝がうまくいかなくなって壊されたとか。壊れてしまったとか。

このケースはあるんですよ。

全部今回、発端から終末まで、文化財を保護する名古屋市の文化財管理部局が起こしたというところが私はちょっと例を知らないんですよ。

なんか重くなってしまいました。

朝日新聞:すみません、朝日新聞です。

名古屋市は、仕切り直しと言うことで、新たな工程案をですね、全体整備検討会議の方で示す考えを述べているんですけども、ただこう言った大規模な地下遺構の毀損事案というものが起こってしまいました。

現時点で木造化計画について、新たなこういう議論を始めることについて、石垣部会さんとしてはどのようなお考えをお持ちかという点を伺いたいんですが。

赤羽: まああの、今回の毀損事件というのは、とんでもない出来事で、私どももびっくりすると同時に、こういった話なんですけども、これがこの先どういうふうになるかということはどうですか、ようするに名古屋城全体から今おっしゃった木造天守を含めて、あらゆる名古屋城の整備計画全体にやっぱり大きな影響があるんだなあ、あるのではないかなという気はします。その中ではやはり名古屋城がよくなれと思っいろいろ整備っていうことが考えられていると思いますけれども、特別史跡という、普通の物件で言うと国宝ということになるわけですよ。

そういう国宝にもあたる名古屋城というのが非常に価値の高いものでありますし、その取扱いには十分気をつけてやらなあかんということを今回まざまざと知らされたわけなんですけども。

これを気に、特にこの整備といいますか、先行させるのではなくて、調査研究という、地下でなにがあるのか、あるいはそういうものをどういうふうにしたらいのかということ、まず検討することが出発していただきたいというふうに思います。

これはあの、これから名古屋城が取り組み様々な木造天守も含め様々な課題について共通して言えることではないかなというふうに思いますので、ぜひ名古屋城といいますか、名古屋市さんとしてこのことを重く受け止めて考えていただきたいというふうに思います。

千田: 少し関連して、今日ですね名古屋市の方から報告ということで毀損事件についてのご説明があったんですが、今日のご説明のとおりでまだ事実関係について調査をしておられるという状況だ、その調査成果については全体整備検討会議にご報告され、あるいは文化庁にもご報告されるということでありますので、毀損自己が起きてしまったっていうところはもうそういうことで、動かないところなわけではありますが、どうしてこういうことが起きてしまったのかについてですね、現段階では少しそれをどう考えるか、それが今後どういう影響を与えるかっていうのは、明確なことが言えないという状況ではないかと思えます。ただしですね、今先生からお話もありましたように、やはり特別史跡を破損してしまう行為を、整備を行おうとしてる中で、先ほど宮武先生からお話がありましたように起こしてしまったということですね。これは動かないと思うんですが、やはり先例もないということでありますし、こういったことをですね絶対に繰り返してはいけないことでもありますので、やはり今日松雄局長から冒頭ご説明がありましたように、名古屋市側がそこをどういうふうに事実関係を捕まえて、二度とこういうことがないようにですね、形にされるかっていうことが非常に大事だというふうに思いますし、石垣部会の議論もですね、そういった的な基礎的な調査あるいは前提としての特別史跡の保存、保全ですよ。

そういったものがあって今日の議論というのの基になっていると。

そこが担保されないということでは、議論ですね、やはり取り組みを進めにくいのではないかと私の意見です。

朝日新聞:重ねていいですか。名古屋市はあの最近の議論になるまでに、文化財に向き合う態度を改める方針を表明されて、今に至ったと思います。そうした後に起きた事件。現段階ではお話にならない状況ではないかもしれないんですけども、現段階で名古屋市さんの態度とか、そういったものについての取り組みについてどういうふうに、思ってると思いますでしょうか。

宮武:えっとですね、今のその皆さんが疑問に思っているところとのスタートラインが違うってことがいいと思ったんですね。今のところメディアの方々が出しているのは、重要な工事に立会いをしてなかった。それはけしからんと。

おそらく聞いておられる方、今日の議論の始まり方に違和感があったんじゃないかと思いますよね。そういう議論の仕方じゃなかったでしょう。つまり先程来、各先生も座長も言っていますけど、発起点はそこじゃないんですよ。

要は最初じゃああそこで良かれと思ってこういう整備をやって、こういう計画でこういう設計を作ってきた。いろんなステージでそれをチェックする場面もあったかと思います。

それが全部スルーされてしまって、ということなんです。だから、いろんな要因がこれから出てくると思うんです。単純に誰かのどういう責任という問題ではなって、名古屋城を維持してさらにはそれを有効に活用して保存していくっていうやり方の一本は変わってないんです。これは名古屋市の姿勢も変わっていないはずなんです。

やり方になにかやっぱり欠陥があるんでしょうね。どこかでチェック機能ですとか、それから職務分担ですとか。単純な話、地面のすぐ下に大切なものが埋まっている、これは小学校でも中学校でもわかることであってはそれが侵されてしまうなんていうのは、大人の仕事ではありえないことなんです。ということはやはりその姿勢ですとか問題にされる方も多いんですけども、システムとしてなにか問題があるという。

そこをやっぱり冷静にみんなで確認をして改善すべきところは改善していくというようにしないと、本当の意味での再発防止にはならない、というように思いますけれどもね。

毎日新聞:ありがとうございました。

名古屋市:ありがとうございました、ではここで